

# ロボット介護機器開発・導入促進事業

平成29年度予算案額 **16.4億円**（20.0億円）

## 事業の内容

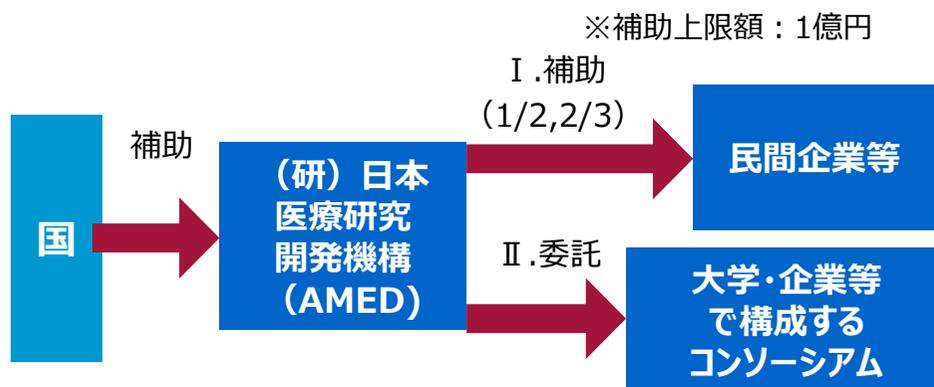
### 事業目的・概要

- 高齢者の自立支援、介護実施者の負担軽減に資するロボット介護機器の開発・導入を促進します。
- 厚生労働省と連携して策定した「ロボット技術の介護利用における重点分野」について、厚生労働省事業（介護ロボット開発等加速化事業）等を通じて得られた介護現場のニーズに基づいた開発補助を行うとともに、介護施設において長期の効果測定を実施します。また、介護現場への導入に必要な基準作成等の環境整備を行います。

### 成果目標

- 平成25年度から平成29年度までの5年間の事業であり、平成32年度にロボット介護機器の市場規模を約500億円へ拡大することを目指します。

### 条件（対象者、対象行為、補助率等）

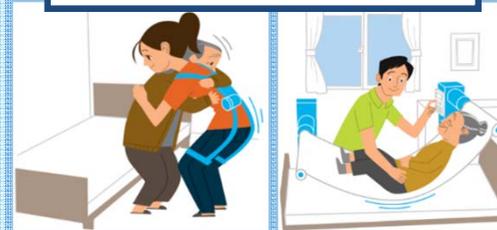


## 事業イメージ

### I. 重点分野のロボット介護機器の開発補助

ロボット技術の介護利用における重点分野  
（平成24年11月 経産省・厚労省公表、平成26年2月改訂）

移乗介助（装着、非装着）



移動支援（屋外、屋内）



排泄支援



認知症の方の見守り（施設、在宅）



入浴支援



### これまでの開発成果例

移乗介助（装着）



移動支援（屋外）



認知症の方の見守り（施設）



### II. 介護現場への導入に必要な環境整備

安全・性能・倫理の基準を作成し、効果の高いロボット介護機器を評価・選抜し、介護現場での実証試験実施や導入を促進します。

# (参考) 事例

## これまでの開発事例

### 事例1 移乗介助分野(装着型)

事業者：CYBERDYNE(株)、腰部負荷軽減用HAL



- 重量物を持ったときの腰にかかる負荷を軽減することで、腰痛になるリスクを減少。

### 事例2 移乗介助分野(非装着型)

事業者：パナソニック(株)、離床アシストベッド



- 抱え上げることなく、1名の介助者だけで簡単・安全に移乗介助をすることが可能。

### 事例3 見守り支援分野

事業者：NKワークス(株)、Neos+Care(ネオスケア)



- 昼夜を問わず、赤外線センサーで動きを察知し、ベッドからの転倒等がないように見守りを行う。

### 事例4 移動支援分野

事業者：RT. ワークス(株)、歩行アシストカート



- ロボット制御のアシスト機能により、カートが使用者の歩調に合わせて動作し、転倒の危険性を大きく低減。